



「伝えたい」思いを言葉にする

校長 田名部 和美

「よこはま子ども国際平和プログラム」の一環として、横浜市が開催している「よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト」は、市内の小中学生の国際平和への意識を高めるため、平成8年度より開催され、今年で30回目を迎えます。先日、本校からも代表児童が区の選考会に参加し、国際平和について自分にできることを考えたすばらしいスピーチを鶴見公会堂で披露しました。区内各学校の代表が22人集まって、自分の考えを堂々と発表している姿は大変立派で、一人一人のメッセージは心をうつものがありました。

国際平和という大きなテーマに対し、「当たり前」に目を向けて、自分たちに何ができるかを考えることは、これからの時代を生き抜く子どもたちにとって、大変意味のある学びの場です。そして、“伝える”という活動のために、話の内容が明確になるよう、構成を工夫することを通して、自分の考えを更に形成していくことにつながります。またスピーチでは、相手に伝えるために、間を取ったり、抑揚をつけたり、問いかけたりなど、話し方を工夫することの大切さも学びます。自分の思いを伝えるためには、相手意識をもって表現することが必要になってくるからです。区の選考会のスピーチからは、言葉を通して、それぞれの思いが伝わってきました。改めて、子どもたちに「話すこと」の力を身に付ける必要性も強く感じました。

「話すこと」については、小学校1,2年生からずっと学んできています。



1・2年生
伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫する



3・4年生
話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫する



5・6年生
資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する

自分の思いを伝えることが必要な場面は、社会において多くあります。「伝えたいこと」があったときどうすれば伝えられるか、苦手意識とも付き合いながら、他者と上手に関わることができるよう子どもたちの「話すこと」の力を育てていきたいと思ひます。